

森のハープが教えてくれたこと



今月のベストショット
ハープの音色に耳を傾ける皆さん

小雨の降る土曜日、28名が公民館に集まりました。この日の主役は、山形県内で活動するハープ演奏グループ・Lunettes（リュネット）。一台一台手づくりという森のハープは、同じ木から生まれても、それぞれ違う音色を持つのだそう。5名の奏者が奏でるハーモニーに、絵本の読み聞かせが重なると、会場はすっと静かな時間に包まれました。

演奏はそれだけで終わりません。手づくりの木の笛を使い、地域のみなさんが一緒になって「きらきら星」に挑戦。練習の成果を発揮する場面では、途中で音が外れてしまう場面も。けれどそのたびに笑いが起こり、頑張る仲間たちへあたたかい眼差しが注がれていました。最後はLunettesのみなさんの伴奏も加わり、思いがけないコラボレーションに。

初対面でも気づけばチーム！ ボッチャがつなぐ輪

この日はボッチャ大会も同時開催。地域住民のみなさんに加えて、地域外からの参加者も交じり、老若男女6チームを結成。初めましての方同士も、ボールを投げ合ううちにすぐに打ち解け、あちこちでナイスショットの歓声と、思わぬ珍プレーへの笑い声が響きました。

勝敗を分けたのは、狙いすました一投か、それとも運か。会場全体が一喜一憂するにぎやかな大会になりました。

大会のあとは、みんなでお茶会。この日のおやつは、地域の方からいただいたじゃがいもときゅうりを使った「芋もちときゅうり漬け」。さらに6月のふれあいカフェで仕込んだ梅ジュースもいい塩梅に仕上がり、みんなでシェアしました。「酸っぱさがいいね、美味しい」の声とともに、雨の日とは思えないあたたかな時間が流れました。

地域も年代も超えて、気づけば輪になっている。それがふれあいカフェのいちばんの魅力かもしれません。次回は9月25日(金)です。みなさんのご参加をお待ちしています。



多世代チームでボッチャを楽しむ
一球入魂で真剣な眼差しの皆さん！！



「きらきら星」の生演奏を必死に練習する
子どもたちと大学生と住民グループ